フィールドワーク記録

2012 年 8 月 9 日 11:30-17:00
訪問先：劇団四季京都劇場
演目：アスペクツオブラブ
訪問者：川田、高見、光本、井上、太田原（記）
応対者：佐々木舞台監督他

我々一同はバックヤードツアーに申し込んでいるため、四季の会ブースでの受付となる。行くと営業の岡田さんがいた。いつもお世話になります。席は S 席というが 2 階席からかなり見下ろす形に。後方の B 席でもあまり変わらなかったという気になる。作品が始まると、先のみえない展開にのめり込み、最後は作品の世界観に浸る。学生の感想を聞くと、ちょっと難しかったよう。あまりの恋愛賛歌のため戸惑うのも無理はないが、あくまで大人のおとぎ話と割り切ればよい。

演目終演後、観客席に戻り、舞台監督の佐々木さんから劇場のハード面の説明を聞いた後、ステージの裏方を見学する。11 トントラックで 3 台分の機材をみる。ライオンキングだと、なんと 50 台分とのこと。大物は専門業者に外注するが、その他は四季内部で製作する。舞台装置や治具等は演目ごとにすべて入れ替わるとのこと。演目ごとのフル・カスタム。

見学後、佐々木監督と話す。話し方と声が同僚の山内君に似ているので、初めて会う気がしない。上演中監督はどこで何をやっているか、当日の公演は何点だったかなど、質問する。観客にはわからない当日の問題点がいろいろあったらしい。役者がカラ回りした部分があったそうだが、私は気づかなかった（ひろのしんは気づいたらしい）。反省会で総括し、改善していくそうだが、プロはできて当たり前。駄目な部分だけ指摘するそう。あえて出来栄えを点数化しないそうだが、ばらつきはあるとのこと。ロングラン公演のなかで、どのあたりでモチベーションが落ちるとか、慣れからのミスが出るとかは統計的に把握しているが、だからといって防ぎ切れるものではないとも。

今回のフィールドワークは、結果的に仕事というよりレジャーとなった。楽しかった。